

第1章

都市の現況・特性の調査・分析

- 1 市の概要
- 2 都市構造の分析評価
- 3 市民等意識調査結果の整理
- 4 島田市が目指す都市の将来像

第1章 都市の現況・特性の調査・分析

1 市の概要

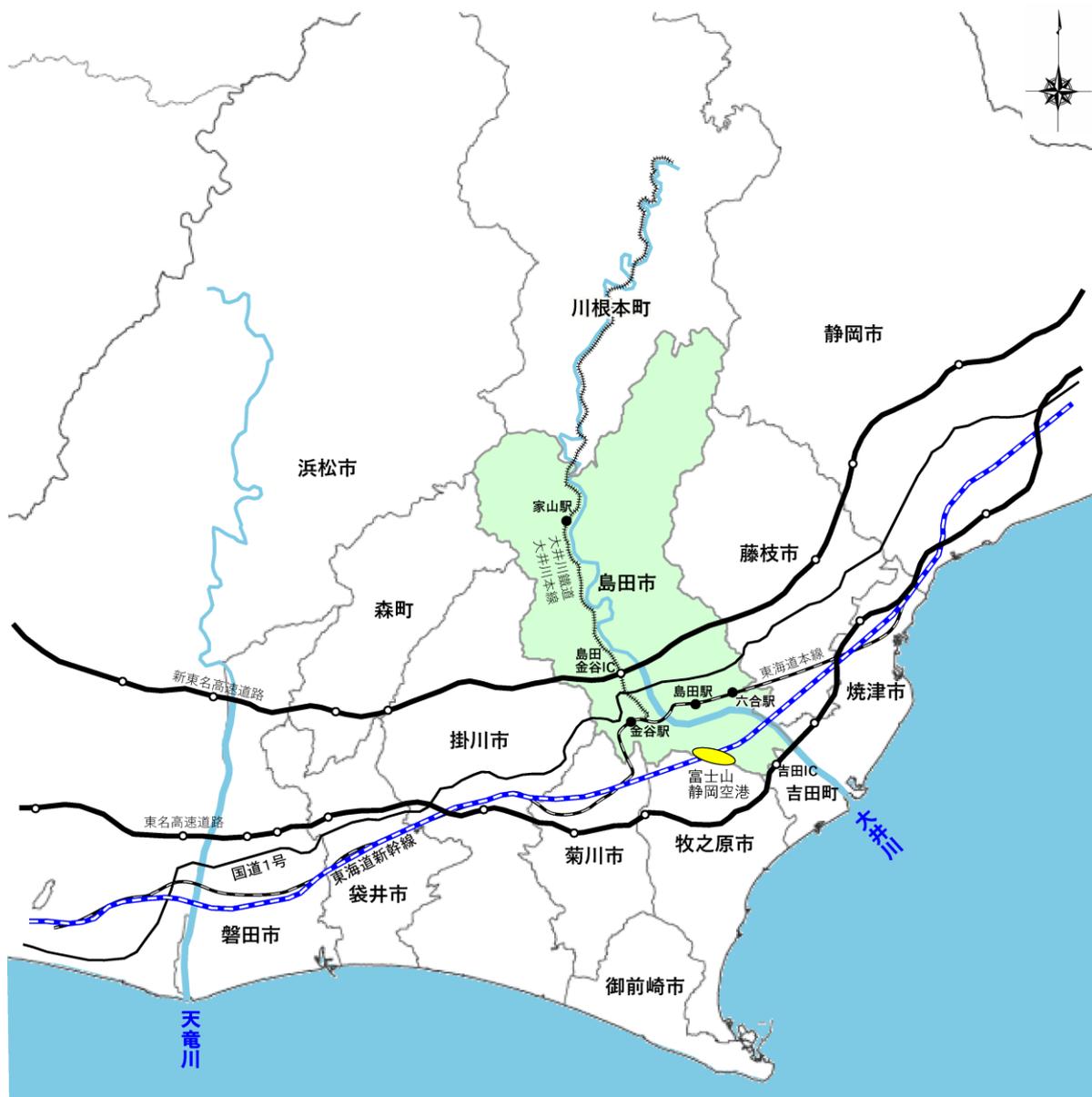
(1) 広域的位置

本市は静岡県中部に位置し、大井川の両岸に広がる面積約315.7km²の市域を有しています。

本市の中央部を新東名高速道路が東西に通過するほか、その南側には国道1号、JR 東海道本線・東海道新幹線及び東名高速道路が通るなど、交通の要衝となっています。

また、本市の南端には富士山静岡空港があり、全国各地や世界をつなぐ空路の玄関口でもあります。

図 島田市の広域的位置

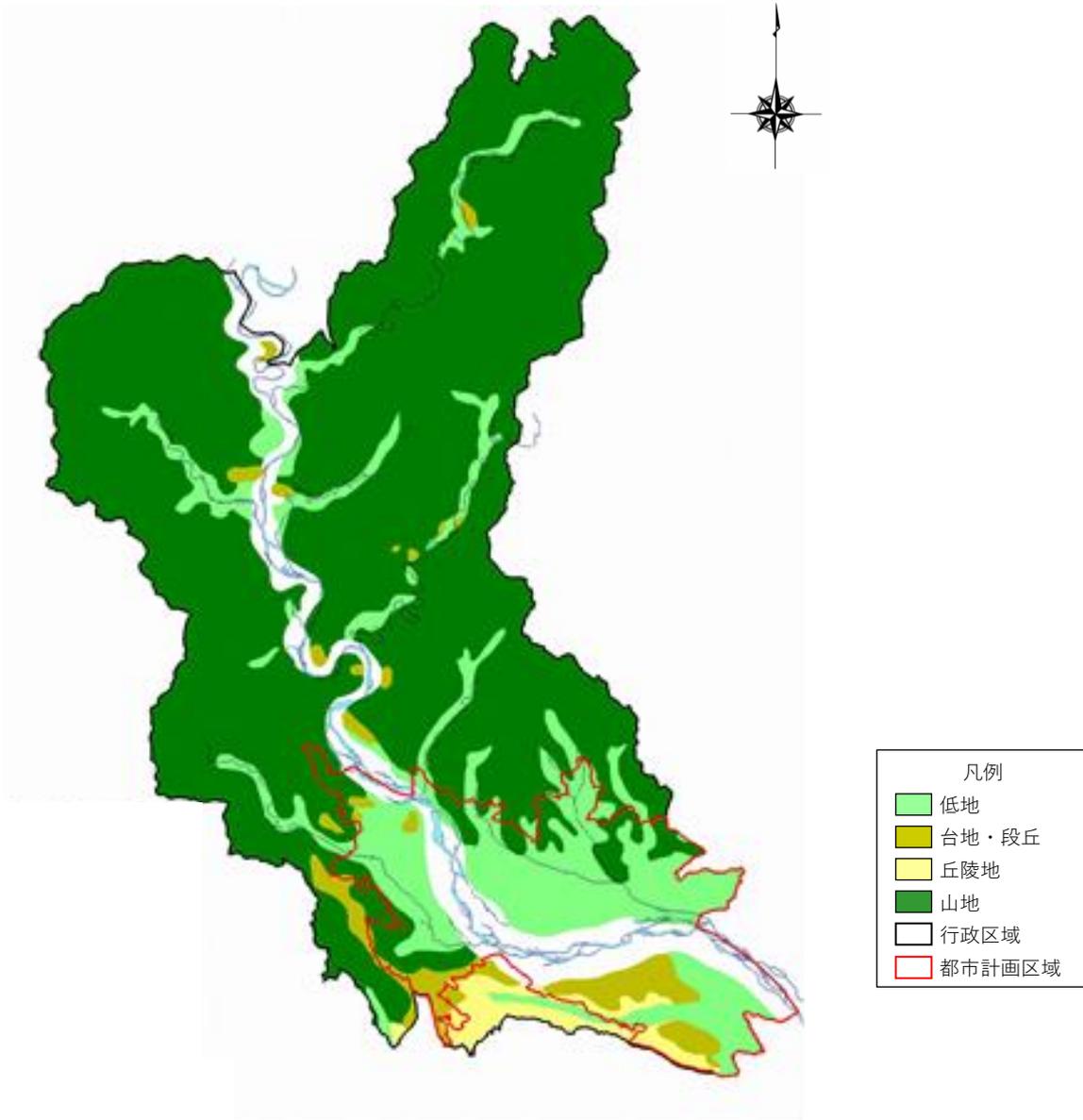


(2) 地形

島田市の地形は、北部の山間地域と南部の台地及びその2つに挟まれた大井川の扇状地から形成されています。

また、一級河川大井川は川幅約1kmにもおよび、本市の成り立ちに重要な関わりを持つとともに、中心市街地周辺地域と初倉地域及び金谷地域や川根地域を二分しています。

図 地形区分図



(3) 沿革

旧島田市はかつての志太郡・榛原郡の24の集落から、旧金谷町はかつての榛原郡16の集落から、旧川根町はかつての志太郡・榛原郡の5の集落から廃置分合を繰り返し、旧島田市と旧金谷町が2005年（平成17年）5月5日に合併しました。さらに2008年（平成20年）4月1日に旧川根町と合併し、現在の島田市となっています。

図 本市の成り立ち



【廃置分合の概要】

- ・1948年（昭和23年）島田町が市制施行
- ・1955年（昭和30年）志太郡六合村、大津村、大長村、伊久身村南部を編入
- ・1961年（昭和36年）榛原郡初倉村を編入
- ・2005年（平成17年）島田市と金谷町が合併。新島田市が誕生
- ・2008年（平成20年）榛原郡川根町を編入

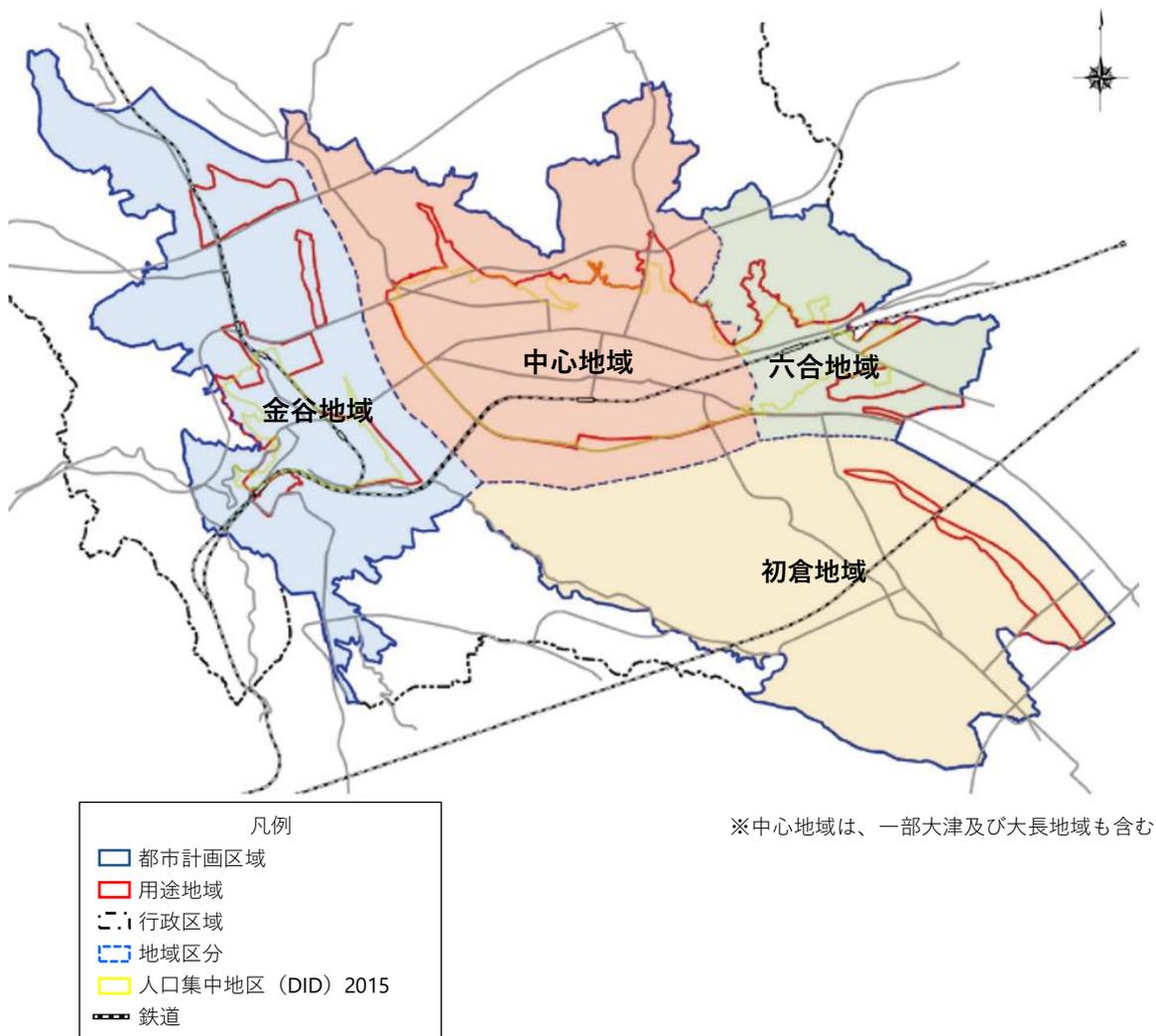
(4) 都市の成り立ち

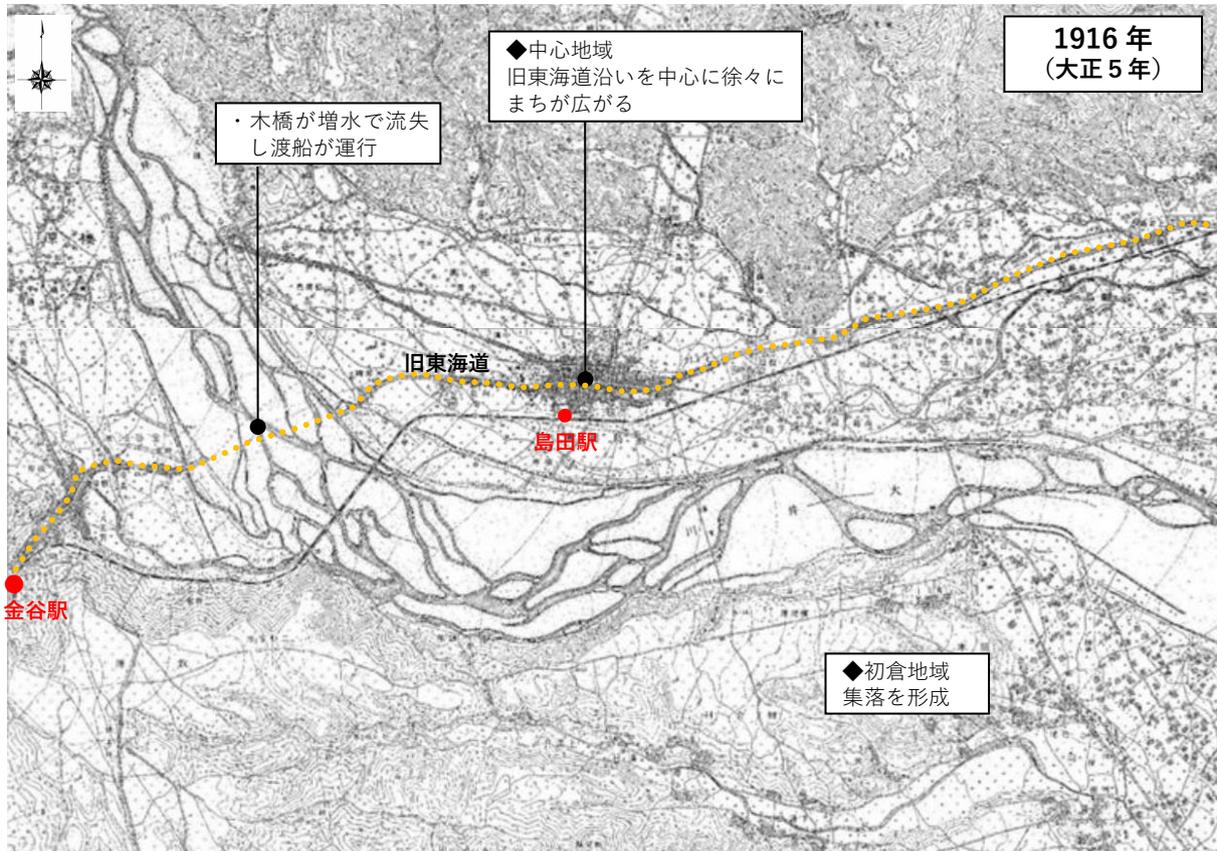
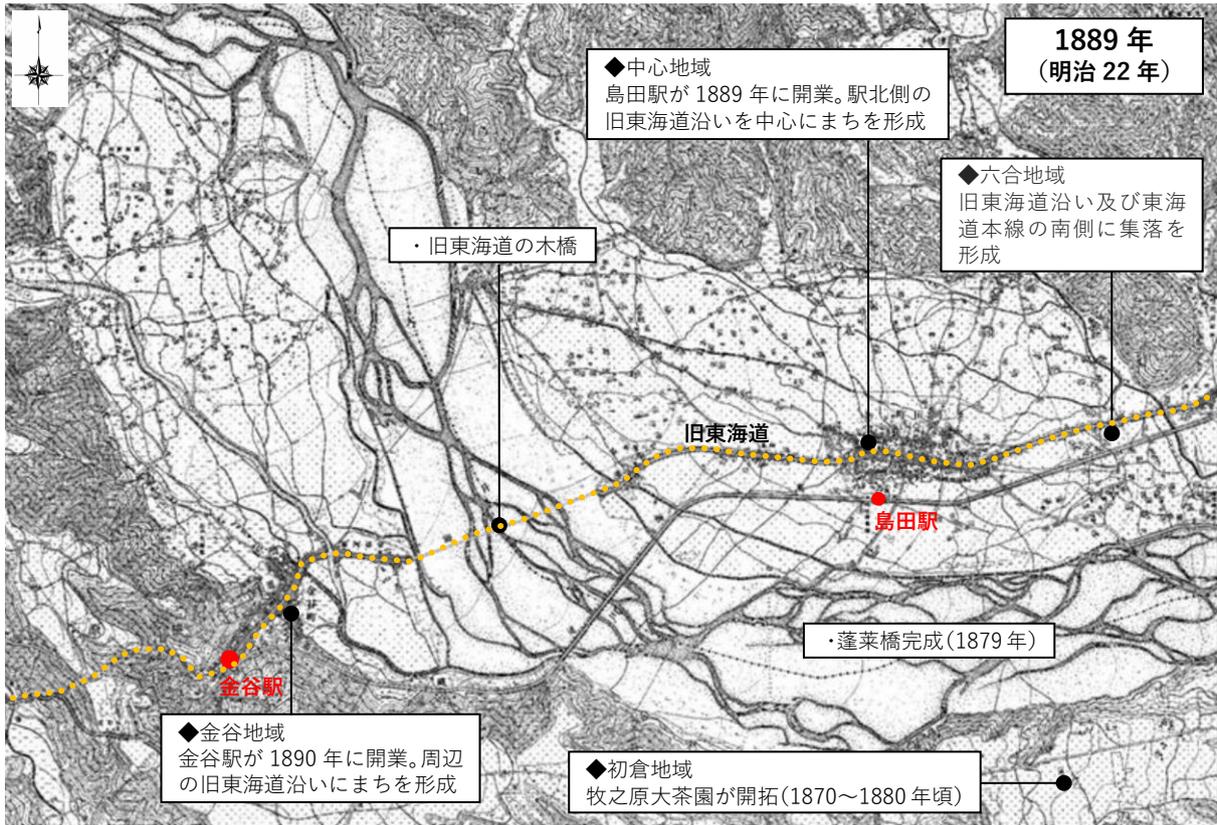
本市は、丘陵地に縄文時代の遺跡が多く分布し、江戸時代には東海道の難所として、大井川の川留めによる宿場として栄えました。また、江戸時代に広まったとされる茶の栽培が市内全域で広く普及しました。

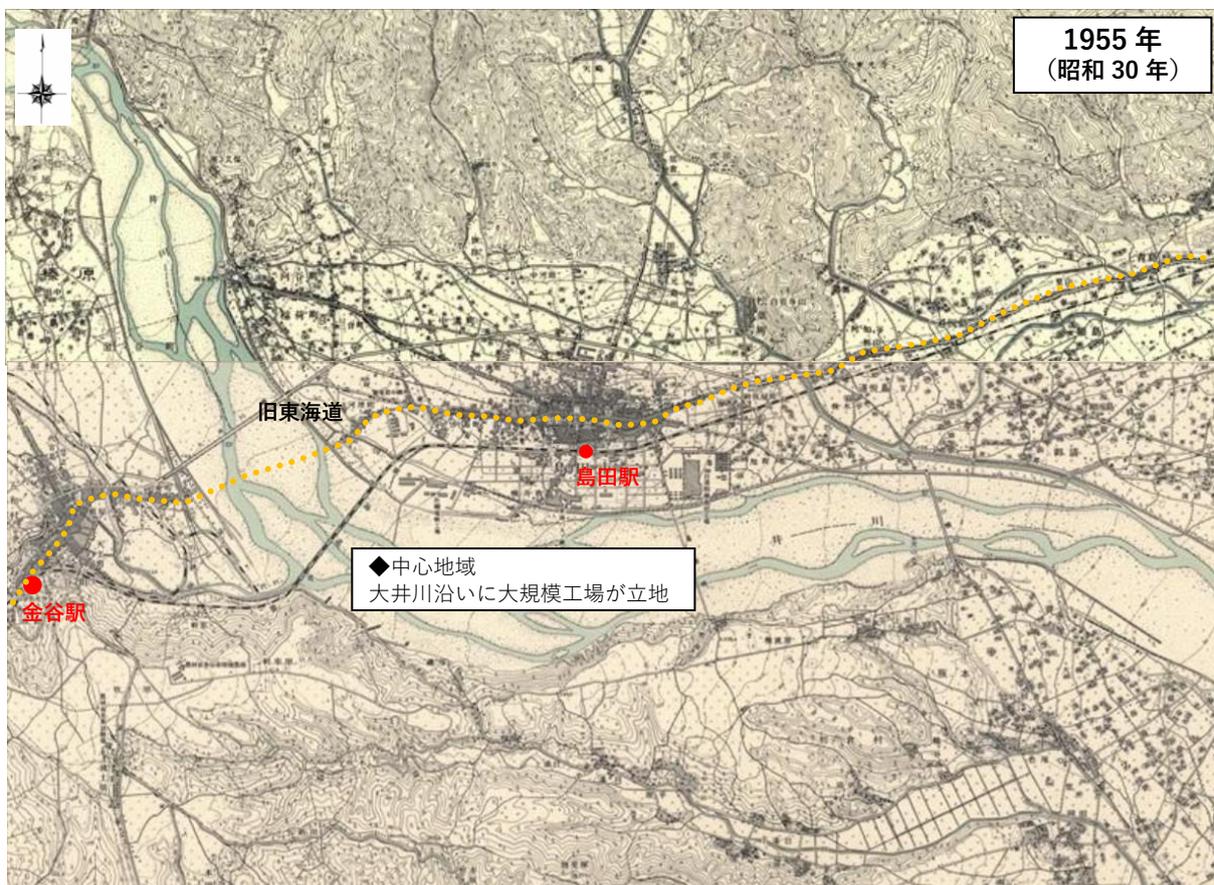
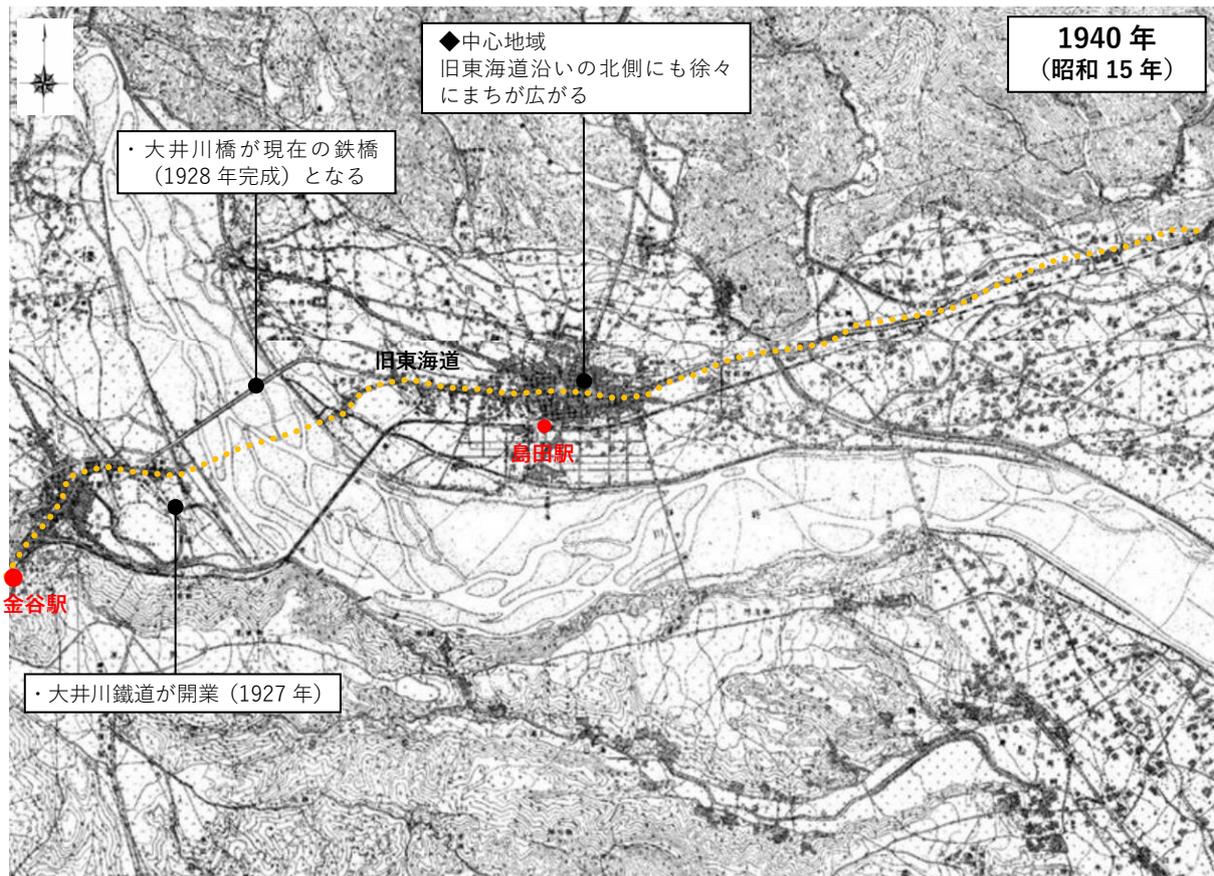
明治時代からは、大井川の水運を活用した木材の生産・流通が活発に行われ、現在では有利な立地環境により広範な企業立地が進み、大井川流域の中核都市として、都市機能を集積しその役割を担っています。

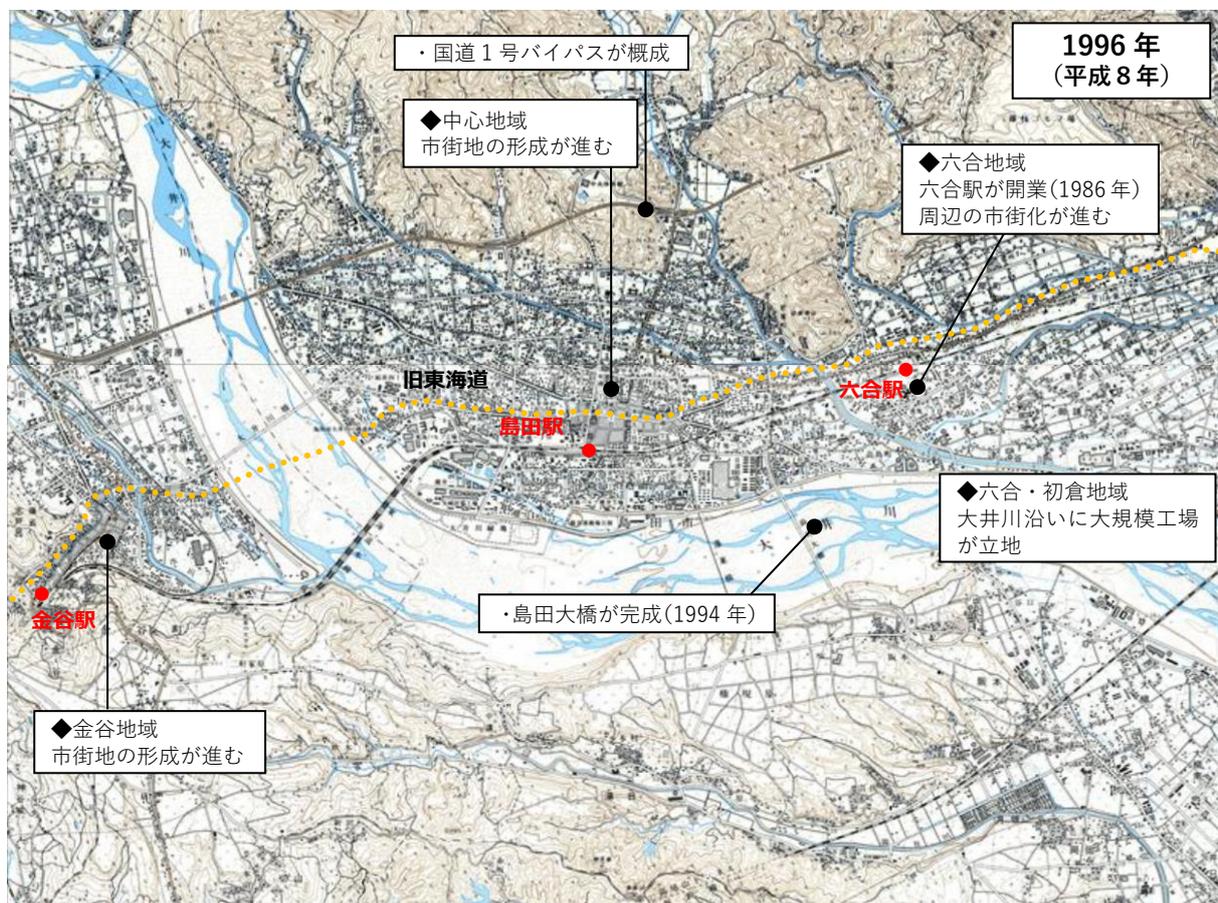
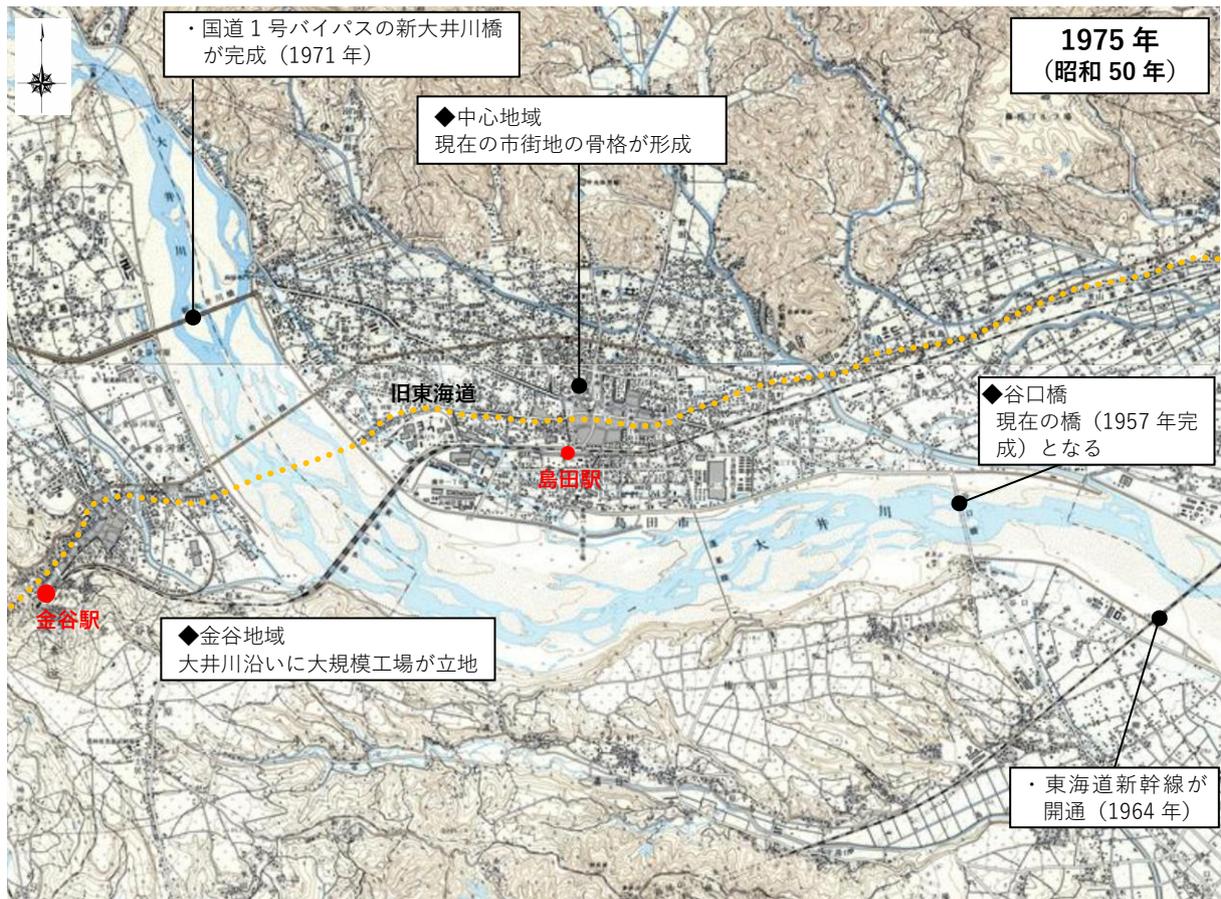
以下、明治時代以降の都市の成り立ちを、4地域（中心、六合、初倉、金谷。区分図参照）の状況、道路・橋・鉄道などの交通インフラの整備状況に着目して、次のように整理しました。

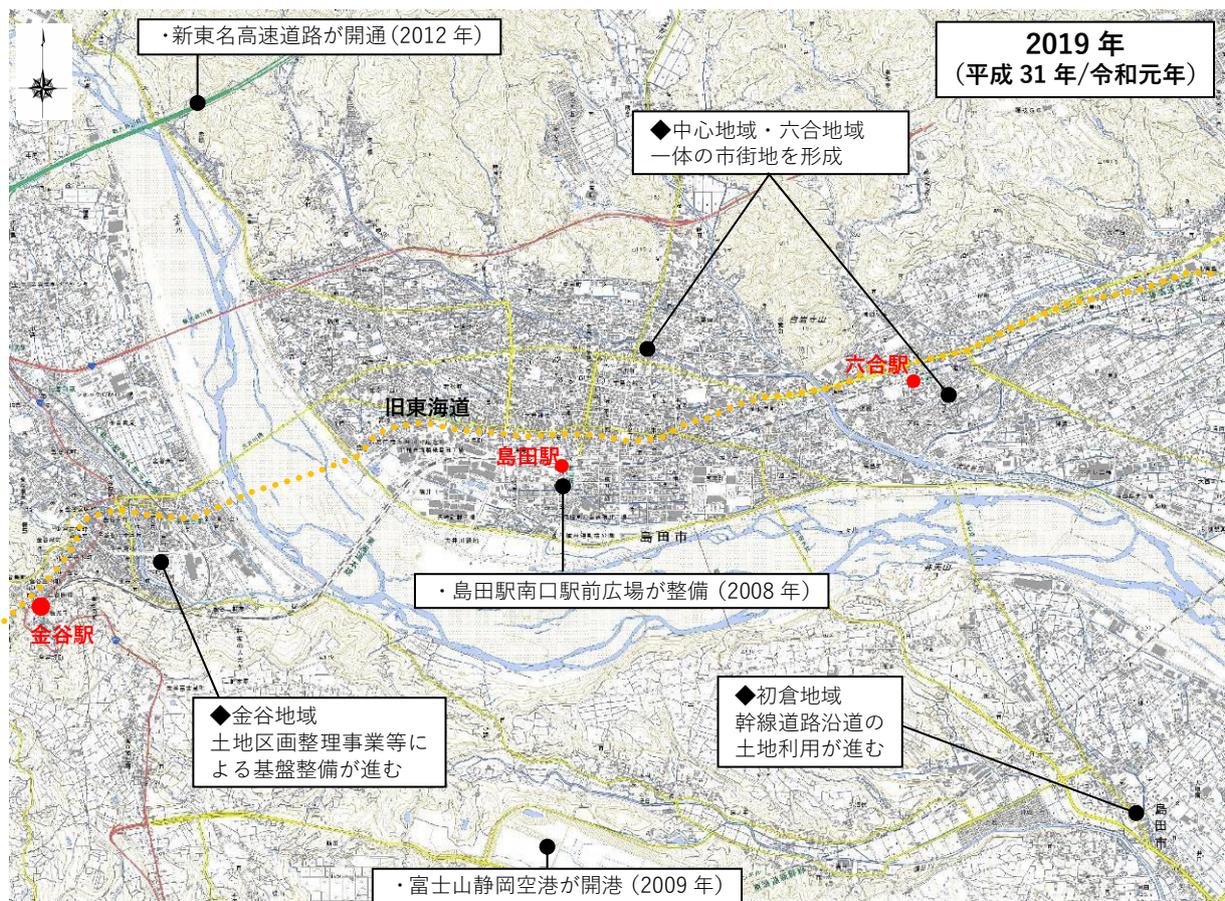
図 4 地域区分











出典：国土地理院ホームページ（1889年、1916年、1940年、1955年、1975年、1996年、2019年）